



### 3 進行管理・評価

#### (1) 総合計画における進行管理

- 総合計画では、目標とその成果を可視化し、課題や改善点を明確化することで、PDCAサイクルの実効性を高め、施策・事務事業の着実な推進を図ります。
- 施策の成果や進捗状況を把握するための指標を設定し、内部・外部の視点から検証を行うことで、効率的かつ効果的な施策・事務事業の推進につなげるとともに、総合計画の達成状況を市民に分かりやすく示します。
- 政策の各分野における市民の実感を調査し、市民目線で施策を推進するための参考とするとともに、中長期的な視点から傾向を把握していきます。

#### (2) 内部評価

- 事務事業の取組実績を把握し、着実な進捗管理を行うとともに、施策ごとに設定した成果指標により、施策の成果や進捗状況を客観的に評価します。
- 評価において確認された課題や改善点は、次年度以降の取組の見直しにつなげるとともに、次期計画への着実な反映を図ります。
- 評価結果の要点を分かりやすく示すため、事務事業を含めて施策単位で一体的に評価します。
- 内部評価は、取組の着実な進捗管理と効果的な見直しのため、毎年度評価を実施します。

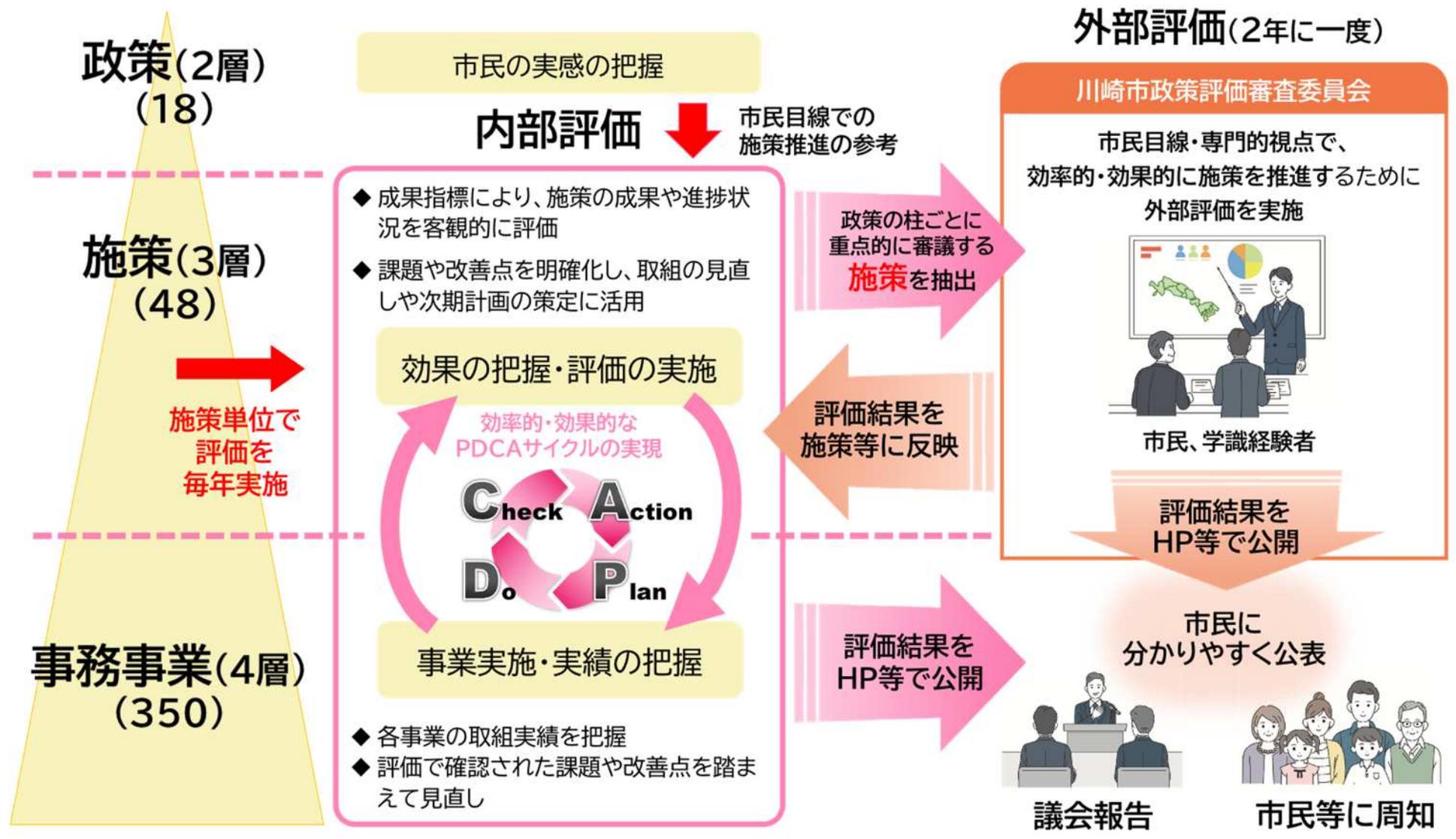
#### (3) 外部評価

- 総合計画における重要な政策等の評価に関して調査・審議を行うため、「川崎市政策評価審査委員会」を附属機関として設置します。
- 学識経験者の専門的視点や公募による市民の目線から、内部評価結果の公正性、適正性、妥当性等の検証を行い、より効率的・効果的に施策を推進します。
- 委員会で作された意見について、市の対応方針を作成・公表し、政策等の改善を図ります。
- 外部評価は、中期的な視点から検証を行うため、2年に一度実施します。



【総合計画における進行管理の全体イメージ】

総合計画の政策体系



概要

基本構想

基本計画

第4期実施計画

資料編



## 4 区のまちづくりの方向性

### (1) 「これからのめざすべき区役所像」と取組の方向性

- 区役所は身近な行政拠点として、これまで「市民目線に立った行政サービスを総合的に提供する区役所」、「共に支え合う地域づくりを推進する区役所」、「多様な主体の参加と協働により地域の課題解決を図る区役所」を「めざすべき区役所像」として掲げ、区役所サービスの向上と、共に支え合う地域づくりに向けた取組を進めてきました。
- その一方で、自然災害などさまざまな危機事象、デジタル化の進展、少子高齢化の更なる進展や地域におけるつながりの希薄化など、区役所を取り巻く社会状況は大きく変化しており、こうした環境変化に的確に対応していくためには、これまで以上に、地域課題の的確な把握や、情報共有・連携の円滑化、デジタル技術の積極的な活用などを推進していく必要があります。
- こうした背景を踏まえ、令和8(2026)年3月に「区役所改革の基本方針」を改定し、今後の10年程度を見据えた区役所像や、区役所が果たすべき役割と方向性を改めて示しています。詳細は同方針を参照ください。また、各区の地域課題対応事業等については、毎年度発行の「区政概要」に掲載しています。

区役所像と実現に向けた取組(「区役所改革の基本方針(改定版)」より)

区役所像	実現に向けた取組
市民目線に立った行政サービスを総合的に提供する区役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合行政機関としての着実なサービスの提供の推進 (専門性の高い業務への注力、包括的な支援体制づくりに向けた取組 等)</li> <li>デジタル技術の活用を含めた現場起点による区役所サービス向上の推進 (「書かない」窓口の拡大に向けた取組、原則オンラインで手続等ができる「行かなくてよい」窓口の取組、ライフステージごとの手続の総合窓口化の検討 等)</li> </ul>
共に支え合う地域づくりを推進する区役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な地域社会の実現に向けた地域づくりの促進 (急速な高齢化が進展する中で、安心して暮らし続けられるよう地域での「顔の見える関係づくり」や多様な主体との連携の一層の進行、子どもを見守り支える環境づくりに向けた地域資源の育成やネットワーク構築、グリーンコミュニティの推進 等)</li> <li>地域づくりに向けた場の確保 (まちのひろばの創出、デジタル化の進展による手続のために来庁する市民の将来的な減少も踏まえた庁舎の有効活用に向けた検討と地域の居場所としての更なる活用検討 等)</li> </ul>
多様な主体の参加と協働により地域の課題解決を図る区役所	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体の参加による地域課題の把握や中間支援の取組 (地域デザイン会議等を活用した市民視点による課題解決、ソーシャルデザインセンターやかわさき市民活動センター等との連携や取組 等)</li> <li>市民視点による地域課題の対応と課題解決に向けた協働の取組 (環境変化に応じた地域課題対応事業や市民提案型協働事業の効果的な推進 等)</li> </ul>



## (2) 7区で共通して行う行政サービス

- 区役所は、市民に身近な行政サービスを提供する行政機関であり、戸籍や住民登録、国民健康保険などの各種手続に加え、福祉や子育て支援などのライフステージに応じた相談や支援のほか、地域の特性を活かしたまちづくりの推進、区民の安全・安心の推進、道路や公園の管理などに取り組んでいます。
- 行政サービスを効率的・効果的かつ総合的に提供するとともに、参加と協働による暮らしやすい地域社会の実現に向けて取り組むほか、地域の特性に対応した事業や各区の地域資源を活かした魅力発信や賑わいづくりなど、区の実情に応じた取組を進めていきます。



### 市民生活を支える行政サービス

戸籍、住民登録、印鑑登録などの受付や証明書発行、国民健康保険、介護保険、年金などに関わる業務、小児医療費、障害者医療費など各助成金の申請受付 など



### 福祉や子育て支援

地域の見守り活動の支援、健康づくり、高齢者・障害者支援、生活保護、妊娠・出産・子育て支援、待機児童対策、感染症対策、公衆衛生、動物愛護 など



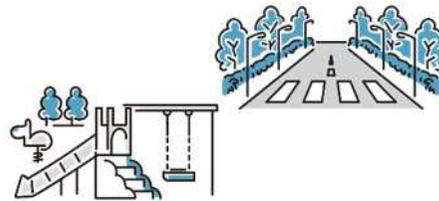
### 区のまちづくりの推進

町内会・自治会の支援、スポーツの推進、区民の生涯学習活動の支援、区民からの相談受付、青少年の健全育成、区政に関する企画立案 など



### 区民の安全・安心の推進

災害対策、防犯対策、交通安全、路上喫煙の防止 など



### 道路や公園の管理、協働・利活用の推進

道路等の維持管理や公園等における協働・利活用の推進 など

各区の地域課題の解決に向けて区役所が主体的に進める取組や各区における道路、公園、福祉施設などの生活基盤の整備状況等を次ページ以降に掲載しています。



## まちづくりの方向性

### 誰もが住んで良かったと思える歴史文化と多文化共生のまちづくり

臨海部の産業集積や駅周辺の商業集積による賑わいと東海道川崎宿をはじめとする歴史・文化資源との融合により、新たなまちの魅力を創造・発信するとともに、顔の見える関係や地域のつながり・絆を大切にしながら、地域への愛着を持ち、誰もが住んで良かったと思えるまちづくりを進めます。また、近年増加傾向にある外国人区民と地域の相互理解を促進し、皆が安全で安心して生活できる多文化共生のまちづくりに取り組みます。

## 現状と課題

- 区域の3方向が水域であること、川崎駅周辺は市内随一の商業集積地であること、一部地域が不燃化重点対策地区であることなどの特徴を踏まえ、区民・事業者・行政が連携して将来想定される大規模災害への備えに取り組んでいく必要があります。
- また、令和6(2024)年の区内の自転車事故発生件数は230件と市内で最も多く、区内の交通事故の約4割を占めており、30歳以上の大人の事故の割合が多くなっています。

自転車関係事故発生状況(令和6年中)

	自転車事故		
	発生件数	死者数	負傷者数
川崎市	230	0	217
幸区	111	0	106
中原区	187	0	160
高津区	148	0	146
宮前区	87	1	88
多摩区	121	0	105
麻生区	99	0	96

資料:川崎市調べ

- 川崎市は、古くから東海道川崎宿の宿場町として栄え、臨海部には高度な産業が集積するなど、歴史・文化・産業といった魅力的な地域資源が豊富なまちです。こうした地域資源を活かし、区民のまちへの愛着や誇りを高め、賑わいや交流を創出するまちづくりを進めます。
- 地域包括ケアや災害への備えといった、住民と協働で取り組む地域課題への対応の重要性は増しており、地域活動やボランティア活動への区民の関心を高めながら、多くの企業が立地するなど区の実情に即した多様なコミュニティの形成にも取り組む必要があります。



東海道川崎宿を活かしたまちづくり

- 令和7(2025)年1月1日現在の人口が231,765人、そのうち外国籍区民の割合は約8.6%であり、全市の外国籍市民の約36%となっています。
- これからの地域社会を共につくる一員として外国人区民が包摂され、すべての人が安全に安心して暮らすことができ、多様性に富んだ活力ある共生社会をめざしていくには、地域と外国人区民等との関わりを増やし、相互理解を深めていく必要があります。

外国籍住民人口(人)



資料:川崎市調べ

## 計画期間の主な取組

区民皆で取り組む  
安全・安心のまちづくり

- 区総合防災訓練等の実践的な訓練や区の特徴を踏まえた自主防災組織等との連携による避難所開設・運営訓練により災害対応力の向上に取り組みます。
- 交通安全対策については、地域デザイン会議で出された区民意見等を踏まえて、区交通安全こども自転車大会と合同開催の大人向け交通安全自転車教室の実施や、地域と連携した啓発活動に継続的に取り組みます。
- また、外国につながる区民が多い区の特徴を踏まえ、多言語による防災訓練や交通安全教室を開催するなど、防災や交通安全啓発の取組を継続します。



交通安全教室

防災や地域包括ケアシステムの  
礎となるコミュニティづくり

- 誰もが気軽に立ち寄ることのできる「地域の縁側」をはじめとした地域保健福祉活動の支援、専門的支援機能と連携した地域づくり、公園緑地の利活用、ソーシャルデザインセンターの取組の推進、さらには東海道川崎宿などの歴史・文化資源や企業市民の集積等の地域資源を活かした多様な主体が連携・交流するまちづくりを進めるなど、さまざまなコミュニティの創出に向けた取組を進めます。
- また、大師・田島の両地区では、地域における区民の交流の場として、こども文化センターと老人いこいの家の機能を継承するコミュニティセンターの整備を進めます。



「地域の縁側」活動の様子

誰にとっても暮らしやすい  
多文化共生のまちづくり

- 日本語に不慣れな子どもや保護者が孤立することを防ぐための通訳・翻訳支援や、外国につながる若者のキャリア支援等に加え、多文化共生プラザを活用した外国につながる区民のコミュニティづくりや、地域コミュニティと外国人区民とのつながりづくりを通じて多文化理解を促進します。
- 外国人材を雇用する企業との連携体制を構築し、日本語教育機会の確保や適切な生活オリエンテーションを通じて、多文化共生社会の実現をめざします。



多文化コミュニティひろば



## まちづくりの方向性

しあわせあふれるまち さいわい

幸区は、緑の中で動植物とのふれあいや歴史を感じることができる加瀬山や、うるおいある多摩川などの「自然空間」、文化・芸術や商業・産業などの施設が集積する「都市空間」が調和したまちです。新たな区民も、これまで暮らしてきた区民も、誰もが地域とつながり、支え合いながら、地域への愛着や誇りをさらに高め、やすらぎと幸せを実感することができるまちづくりを進めます。

## 現状と課題

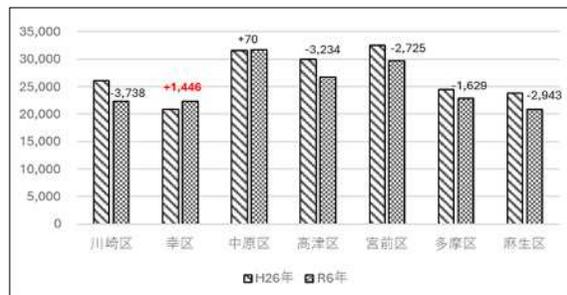
- 市内唯一の動物園「夢見ヶ崎動物公園」や歴史を感じる「加瀬山」、梅林の名所「御幸公園」、商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」や、文化・芸術施設「ミュージア川崎シンフォニーホール」、「SUPERNOVA KAWASAKI」など、多様な施設が集積し活気に満ちています。さらに、最先端分野の研究開発拠点「新川崎・創造のもり」など、多くの地域資源があります。
- 近年は大規模マンションの建設に伴い転入者が増えており、こうした地域資源の魅力を新たな区民にもこれまで暮らしてきた区民にも知ってもらい、地域への愛着や誇りを高めていくことが求められています。



大規模マンション等が立ち並び  
鹿島田駅・新川崎駅周辺の様子

- 0-14歳人口が10年前と比較して7区で最も増加しており、新たに小学校が開校されるなど、まちに新たな活力が生まれている一方で、子育てへの不安・孤立感といった課題が発生しています。
- また、7区の中で町内会・自治会加入率が最も高いものの、その加入率は徐々に低下している現状にあります。
- 多世代が共に暮らす地域においては、新たな区民も、これまで暮らしてきた区民も、誰もが地域のつながりや支え合い、やすらぎと幸せを実感することができるまちづくりが求められています。

7区の0～14歳人口の比較(H26・R6)



資料:川崎市調べ

- 近年、多発する自然災害により、地域社会における防災力の強化がますます重要視されています。
- 高齢化率が50%を超える地区が存在し、老朽化した建物も多い一方で、比較的若い世代が多く居住する大型マンションが集積する地区も存在することから、災害に備え、各地区の特性に応じた、迅速かつ的確に対応できる体制づくりが求められています。

65歳以上人口比率(幸区内上位5町丁)

(R7年3月末)

町丁目	割合
1 河原町	52.3%
2 小倉	38.6%
3 東古市場	30.5%
4 古市場	28.0%
5 古市場1丁目	27.6%
(幸区平均)	20.9%
(川崎市平均)	20.2%

資料:川崎市調べ

## 計画期間の主な取組

地域資源を活用し、未来を切り拓く  
魅力的なまちづくりの推進

- 区民、市民活動団体、企業など多様な主体と区が一体となって連携し、「夢見ヶ崎動物公園」の再整備の機会を捉えた活動や、御幸公園での「観梅会」、新川崎・創造のもりで行われる「科学とあそぶ幸せな一日」、絵本作家「かこさとし」さんゆかりの地であることを活かした取組などを実施します。
- こうした地域資源を活用したイベントの実施にあたっては、SNSや地域の人々の力を活かした広報を通じて、地域資源の魅力を発信するなど、賑わいと彩りのあるまちづくりを推進します。



「科学とあそぶ幸せな一日」で工作を体験する様子

地域の絆で支える  
地域包括ケアシステムの推進

- 子育て世代が地域で孤立することのないよう、「こどもの外遊び事業」を実施するほか、多世代が気軽に集い交流できる「幸区ポッチャ大会」の開催や、地域活動に参加しやすいきっかけを創出する「さいわい縁むす日」などを実施し、地域のつながりづくりを進めます。
- また、中高生向けボランティア「はぴ☆ボラ」等のボランティアのしくみづくりなども進め、地域で支え合える関係や、生きがいを持つことができる環境を構築します。



ポッチャで多世代が交流する様子

地域の防災力向上に向けた  
取組の推進

- 住民、企業、関係団体・機関との防災に関する連携を強化し、発災時にはそれぞれが役割を果たし、迅速かつ確かな対応ができる体制づくりを進めます。
- また、区内の全避難所において、年1回の避難所運営会議・開設訓練を実施するほか、若年層を巻き込んだ実践的な訓練や帰宅困難者対策訓練の実施、倒壊の危険性が低い築浅マンションが集積する地区においては、企業等と連携しながら在宅避難やローリングストックの啓発を行うなど、地域の特性を踏まえた地域防災力の向上を図ります。



防災倉庫から避難所に物資を搬送する訓練の様子



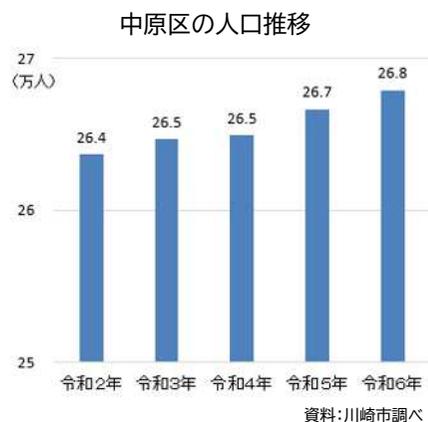
## まちづくりの方向性

水と緑と笑顔が会い 未来につなぐ 住み続けたいまち なかはら

中原区は、多摩川やニヶ領用水、等々力緑地や井田山緑地など、水と緑を中心とする自然に恵まれるとともに、都心への交通利便性にも優れ、都市型住宅や商業施設が立ち並び、都市機能が集約されたコンパクトなまちです。人口、世帯数とも市内で最も多い区であるため、人と人のつながりにより活気を醸成するとともに、地域資源を活用しながら、区民が地域に愛着と誇りを持って、これからも住み続けたいと実感できるまちをめざします。

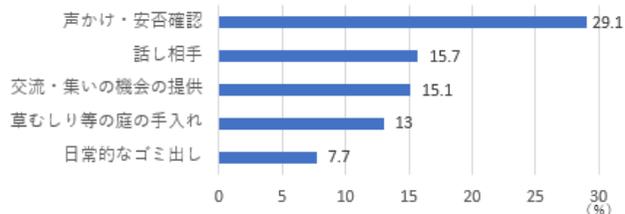
## 現状と課題

- 令和6(2024)年には、市内で最も多くの出生数を記録するとともに、転出・転入者数がいずれも2万人を超えるなど、人口の動きが活発な区です。
- 特に武蔵小杉駅周辺では、再開発に伴う高層マンションの建設によって人口増加が進んでおり、武蔵小杉駅周辺全体の将来像を見据えた、持続可能なコミュニティづくりを進める必要があります。



- 令和2(2020)年国勢調査によれば、区内の高齢者の約2割がひとり暮らしとなっています。
- 令和6(2024)年度区民アンケートでは、「地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと」に対して約3割の方が「声かけ・安否確認」と回答しています。
- こうした状況において、地域包括ケアシステムが掲げる「誰もが住み慣れた地域や自らの望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現」に向けて、区の特徴である水と緑を中心とする地域資源を活かしながら、自助・互助の取組をさらに推進する必要があります。

地域で支え合いを希望すること、将来的に頼みたいと思うこと



- 激甚化・頻発化する災害に備えて、誰もが安心して暮らしていけるよう、地域主体の防災力強化が必要です。
- また、武蔵小杉駅は市内有数のターミナル駅であることや、周辺には高層マンションが多く立地していることなどから、帰宅困難者対策など、地域特性を踏まえた災害への備えも求められています。



高層マンションが立ち並び 武蔵小杉駅周辺の様子

## 計画期間の主な取組

### 地域コミュニティの推進

- 市民提案型協働事業やソーシャルデザインセンターなどを通じて、地域団体への支援や、区民が新たな活動に挑戦できるきっかけづくりに取り組みます。
- また、武蔵小杉エリアプラットフォームや区内を拠点とするスポーツチーム等と連携し、武蔵小杉駅周辺の公共的空間を活用した魅力づくり等に取り組むことでコミュニティの基盤となる地域への愛着の醸成を図ります。



上段：公共空間を活用した取組(こすぎでそとあそび)  
下段：NECレッドロケッツ川崎バレーボール教室

### 多様な主体による 地域包括ケアシステムの推進

- 多摩川や二ヶ領用水、等々力緑地をはじめとした豊かな自然環境を活用しながら、ゆるやかにつながれる「ご近所さんぽ」や健康体操等の取組を推進するとともに、「なかはら子ども未来フェスタ」など各種イベントの開催や情報発信等を通じて、多世代に向けたセルフケア意識の醸成を目的とした健康づくり・疾病予防の取組を行います。
- また、中原区内に数多く存在する企業やスポーツチーム、商業施設等と連携し、子どもから高齢者までがつながれる場を創出し、共生意識の醸成を推進します。



「ご近所さんぽ」の様子

### 地域の防災力強化

- 防災における自助・共助を支える自主防災組織の取組を支援するとともに、誰もが気軽に参加しやすい防災イベントや訓練を実施することで地域防災力の強化に取り組みます。
- また、高層マンションや商業施設等が立地する中原区の地域特性に応じた防災対策及び武蔵小杉駅周辺地域エリア防災計画に基づく帰宅困難者対策を実施します。



総合防災訓練の様子



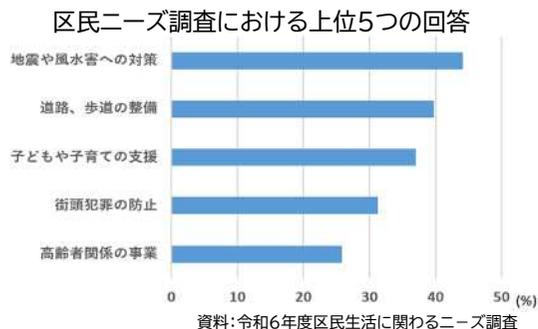
## まちづくりの方向性

歴史と進歩が調和した、心豊かに安心して暮らせるまちづくり

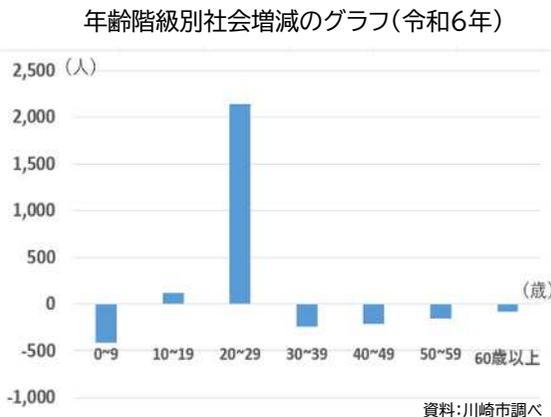
高津区は、多摩川やニヶ領用水の豊かな水辺と、多摩丘陵の一角を成す起伏ある緑地が特徴で、交通利便性の高い溝口駅を中心に商業が盛んな高津地区と農地や緑地が広がる橘地区からなります。古代から江戸時代に連なる歴史的資源、音楽・ダンス等の文化資源など地域の魅力を活用して、若者を中心に増えている転入世帯のつながりと長く地元で暮らす人たちのつながりを結び、新たな地域コミュニティを創出するまちづくりを進めます。

## 現状と課題

- 区民ニーズ調査(令和6(2024)年10月)において「特に力を入れてほしい」区役所業務の1位が「地震や風水害への対策」(44%)となっています。多摩川の水害、土砂災害など地域ごとに異なる災害リスクがあることから、区民一人ひとりが災害時に適切な避難行動を取れるための啓発や自助意識の向上が課題となっています。
- また、区独自の環境まちづくり「エコシティたかつ」の取組を、事業者等と連携した「脱炭素アクションみぞのくち」の取組も含めて柔軟に進めてきましたが、市制100周年・緑化フェアを契機とした「ネイチャーポジティブ」に資する取組に再構築していく必要があります。



- 居住歴の長い区民を中心に地縁組織のつながりが強く、長く地域に根差した高津区民祭、橘ふるさと祭りなどのイベントが行われている一方で、区全体では20代を中心に人口の社会増が続き、若年層や新規に転入してきた区民を中心に新たなつながりも生まれています。
- こうした、新たなつながりと長く地域に根付く歴史とが調和した、魅力発信や環境づくりなど、地域への愛着を醸成して定住を促す取組が必要です。



- 区民が愛着を持てるまちづくりを推進するため、ニヶ領用水久地円筒分水、大山街道、溝口駅前キラリデッキなど、新旧のさまざまな地域資源を活用した取組を区民との協働で進めていますが、地域の魅力をさらに高めるためには、新たな地域資源の創出と幅広い世代に届く情報発信を多様な主体とともに取り組んでいく必要があります。



久地円筒分水

## 計画期間の主な取組

安全・安心で住みよい  
まちづくりの推進

- 多様な避難のあり方や災害時のトイレ対策などの啓発と、避難所運営会議や自主防災組織による訓練等の推進により、地震や風水害に対する地域防災力の向上に取り組みます。
- また、溝口地区の脱炭素化をめざす「脱炭素アクションみぞのくち」の取組と連携するとともに、区内の多様な主体による取組を環境視点から捉え直して連携していく「エコシティたかつ」の再構築を通じて自然を増やしていくことで、自然災害リスクを低減する緩和策や気候変動適応策に対する区民の理解にも繋げ、行動変容を促していきます。



エコシティたかつの活動の様子

多様な主体との連携による地域で  
支え合うまちづくりの推進

- ソーシャルデザインセンターの各機能等を活かしながら、リニューアルした溝口駅前キラリデッキの地域主体の活用を進めるなど、誰もが気軽に参加できるイベントや小さなコミュニティ同士を結び付ける取組、子育て・福祉など各分野の地域活動団体との連携、地域の担い手の発掘により、世代や居住歴の隔てなく支え合う地域づくりを進めます。
- また、橘出張所を誰もが気軽に立ち寄れる「地域に開かれた拠点」とするためのリニューアルに取り組みます。



橘出張所リニューアルの内装イメージ

地域資源を活用した  
魅力あるまちづくりの推進

- 広く多世代の区民との協働により、橘樹官衙遺跡群、レイキン、かすみ提をはじめとした区内の歴史・文化・自然などの地域資源の保全・活用や、憩いの場など新たな地域資源の発掘・創出を進め、「歩きたくなるまち」として、「高津のさんぽみち」の活用や、市制100周年で整備したキラリデッキステージを活用した音楽・ダンスイベントの実施等により地域の魅力を高めます。
- また、YouTubeの「川崎市たかつ区チャンネル」などの広報媒体を活用して周知を図り、地域への関心を高め、愛着を醸成する取組を進めます。



キラリデッキステージを活用したイベント



## まちづくりの方向性

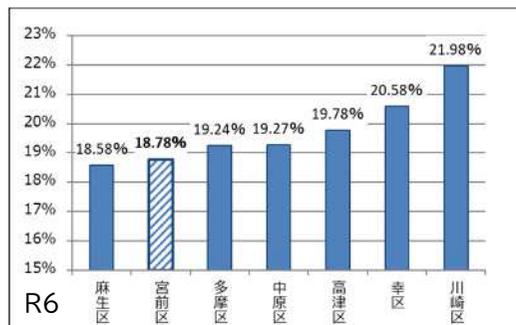
人が好き 緑が好き まちが好き

宮前区は、起伏に富んだ多摩丘陵の一角に位置し、地域に根付いた歴史・文化、農のある風景や平瀬川の水辺、菅生緑地や身近な公園の豊かな緑などの多彩な地域資源に恵まれているとともに、多くの主体的に活動する区民に支えられてきたまちです。今後も、区民が守り、大切に育んできた歴史・文化や農・自然などの多彩な地域資源を活かし、誰もが地域に愛着を持ち、生きがいを持って暮らせる、区民が主役のまちづくりを進めます。

## 現状と課題

- 高齢者のうち、要支援又は要介護と認定された方の割合が、18.8%(令和6(2024)年10月1日現在)と7区で2番目に低く、健康意識が高い高齢者が多い状況ですが、市の将来人口推計では、令和37年(2055年)に麻生区を抜いて高齢者の割合が7区で最も高くなるなど、今後急速な高齢化の進展が予測されます。
- 一方で、年少人口の割合が12.7%(令和6(2024)年10月1日現在)と7区で2番目に高く、「夫婦と子」のみ世帯の割合が32.5%(令和2(2020)年)と7区で最も高く子育て支援ニーズが高くなっています。

高齢者中の要支援又は要介護認定者割合



資料:川崎市調べ

- 昼夜間人口比率が68.2%(令和2(2020)年国勢調査)と7区で最も低く、区外を日常の生活圏としている区民が多数いることから、地域への参加意識の醸成が課題となっており、区の魅力を知って、関わって、好きになってもらうことで、地域への愛着や誇りを育むことが必要となっています。
- また、地域包括ケアシステムの構築や地域防災力の向上など、地域の課題解決にあたり、地域の一員としての自覚を高めるとともに、地域活動のきっかけづくりや、地域コミュニティづくりが一層求められています。

昼夜間人口比率(不詳補完値)



資料:令和2年国勢調査

- 地域に根ざした伝統芸能などの歴史・文化のほか、農のある風景等の緑豊かな自然など、魅力ある地域資源に恵まれており、こうした資源を活かした区民主体のまちづくりの取組が進められています。
- また、今後も魅力ある地域であり続けられるよう、こうした取組を次の世代へと引き継いでいくことが求められています。



初山の獅子舞



平瀬川桜祭り・稚鮎放流会

計画期間の主な取組

誰もが生きがいを持ち、心がつながり  
支え合う、地域の輪づくりの推進

- 今後の急速な高齢化を見据え、いくつになっても生きがいを持って暮らせる区づくりに向けて、区オリジナルの「プレ・エンディングノート」等を活用し、早いうちから前向きな終活を区内に広げる取組を進めていきます。
- また、地域コミュニティの活性化に向けて、宮前区ソーシャルデザインセンター「みやまえBASE」等を通じて、普段地域と関わりが少くない人や世代を巻き込み、ゆるやかにつなげていく取組を進めていくとともに、地域包括ケアシステムの推進に向けて、地域のつながり・支え合いの大切さへの理解と共感を広げる取組などを進めながら、互いに支え合う地域の輪づくりに取り組めます。



宮前区ソーシャルデザインセンター「みやまえBASE」

地域における、切れ目のない  
子ども・子育て支援の推進

- 転入等により慣れない土地で育児をする保護者を含め、すべての子育て中の家庭が安心して子育てできるように、子育てガイドやSNS等を活用し、子育てに関する情報を効果的に発信します。
- また、地域全体で子育てを支える環境づくりに向けて、関係機関や団体等との連携強化や、子育て世代と地域のあらゆる主体との交流を促進する取組の支援等を進めます。



外遊び活動・交流促進支援の取組  
（「冒険遊び場」の活動風景）

多彩な地域資源を活かした  
区民主体によるまちづくりの推進

- 歴史ガイドや農産物直売所ガイド＆マップの配布、「響け！みやまえ太鼓ミーティング」などを通じて多彩な歴史・文化、農や自然などの地域資源の魅力を発信します。
- また、起伏に富んだ地形を活かしたウォーキングイベントなど、地域資源を活かした参加型イベント等を開催し、区民がいつまでも元気で地域に愛着を持って住み続けられるよう意識を醸成していくことで、さまざまな人を巻き込みながら、これまでの区民主体によるまちづくりを次の若い世代へ継承できるように取り組みます。



響け！みやまえ太鼓ミーティング

# 多摩区



## まちづくりの方向性

水と緑と学びのまち～うるおい豊かな住み続けたいまちへ～

多摩区は、多摩川やニヶ領用水などの「水辺」、多摩川崖線軸の斜面緑地や生田緑地などの「緑」、そして、区にゆかりのある大学等の知的資源を活かした「学び」等、魅力あふれる地域資源の豊かなまちです。これまで培ってきた多くの魅力や価値を引き継ぎ、高めながら、区民一人ひとりがうるおいあたたかい地域とのつながりを身近に感じ、これからも住み続けたいと実感できる、すこやかに安心して暮らせるまちづくりを進めます。

## 現状と課題

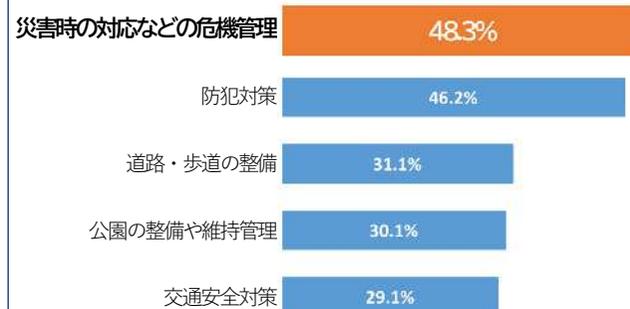
- 市内随一の緑の宝庫である生田緑地や多摩川などの貴重な自然環境、多彩な魅力にあふれる美術館、博物館、スポーツ施設、多くの学生が学ぶ大学等、個性豊かな地域資源が数多く存在しています。
- また、生田緑地では新たなミュージアムの開設や、ばら苑の再整備も決定しています。
- これらの豊富な地域資源を活かしながら、区の魅力や強みを内外に積極的に発信することで、多摩区に住みたい、住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていく必要があります。



岡本太郎美術館、青少年科学館、日本民家園

- 区内には多摩川、五反田川、三沢川などの河川が流れるほか、区内南部を中心として168の土砂災害警戒区域が指定（令和7（2025）年3月現在）されており、自然災害が発生しやすい地域特性を持っています。
- 自然災害の発生に備えた自助・共助・公助による取組や防災体制の構築、実践的な訓練、隣接自治体との連携等、日頃からの活動を通じて、地域全体の防災力を高める取組を進めていく必要があります。

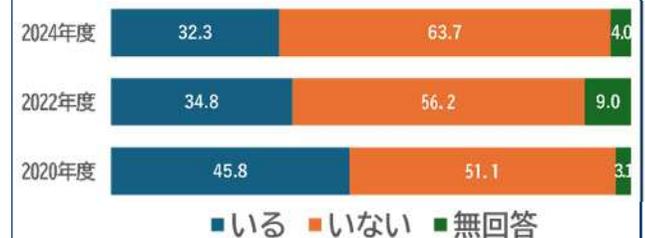
### 区役所が力を入れて取り組むべき施策



資料：令和6年度区民意識アンケート調査

- 区内人口は、平成24（2012）年から令和7（2025）年まで13年連続で増加しており、将来人口推計では令和17（2035）年頃にピークを迎えることが見込まれています。
- また、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺での区画整理事業の基盤整備により、大規模マンション等が建設され住宅の供給量が増加していることから、引き続き転入者の増加が想定されます。
- 令和6（2024）年度区民意識アンケートでは、「近所にちょっとした手助けを頼める人がいるか」について聞いたところ、「いない」が63.7%で過去最高となっているなど、住民構成の変化による新たな課題が顕在化しています。

### 近所にちょっとした手助けを頼める人はいるか



資料：令和6年度区民意識アンケート調査

計画期間の主な取組

地域資源を活用した賑わいと魅力ある地域づくりに向けた取組の推進

- 登戸・向ヶ丘遊園駅周辺での区画整理事業を契機として、自然環境、美術館、博物館、スポーツ施設や大学といった豊富な地域資源を活用しながら、地域の団体・住民等、多様な主体との協働によるまちづくりに取り組みます。
- 区民が地域に愛着と誇りを持ち続けられるように、自然・文化・学びに、誰でも身近に触れることができるというまちの魅力を発信し続けるとともに、地域交流を促進させることで地域の活性化等につなげます。



登戸・向ヶ丘遊園エリアの関係団体の協働による賑わい創出イベント「登戸・遊園ミライノバハレの日」の様子

災害に強く安全で安心できるまちづくりに向けた取組の推進

- 多摩川と多摩丘陵に挟まれた地域特性による洪水や土砂災害のリスクを踏まえ、災害時の円滑な避難所運営に資する避難所運営会議及び地域防災活動の中心的な役割を担う自主防災組織への支援、適切な避難行動を可能とする実践的な訓練、地域住民向けの防災講座や防災に係る普及啓発等を引き続き実施します。
- 区民の防災意識の向上を図るとともに、区本部機能の強化、隣接自治体との更なる連携など、地域防災力の強化に向けた取組を進めます。



避難所開設訓練の様子

多様な主体の連携による地域包括ケアシステムの更なる推進

- 人口増に伴うニーズの多様化、住民同士のつながりの希薄化等の課題に対し、居場所・つながりづくりを目的としたイベントや、「地ケアつながりプロジェクト～TeamSUGE～」をはじめとする多様な主体による協働・連携に向けた交流会などを通して、地域コミュニティを活性化させ、地域包括ケアシステムを推進します。
- また、多摩区ソーシャルデザインセンター等を介して、多様で豊かな人的資源・地域資源を有機的に連携させ、地域活動の支援を行うほか、町内会・自治会の活動の活性化、子育て支援等、地域の特性に応じたさまざまな主体の参加と取組を促進します。



「地ケアつながりプロジェクト～TeamSUGE～」での意見交換の様子

# 麻生区



## まちづくりの方向性

豊かな自然と芸術・文化が溶け合う活力のあるまち

麻生区は、新百合ヶ丘駅周辺をはじめとして、区内に芸術・文化が輝き、黒川・岡上・早野などに広がる豊かな自然や農のある風景と、景観の整った美しい街なみが調和するまちです。こうした貴重な地域の資源を大切に育むとともに、地域や大学などさまざまな主体と連携し、安全・安心で、誰もがつながり、支え合う地域づくり、魅力と活力にあふれるまちづくりを進めます。

## 現状と課題

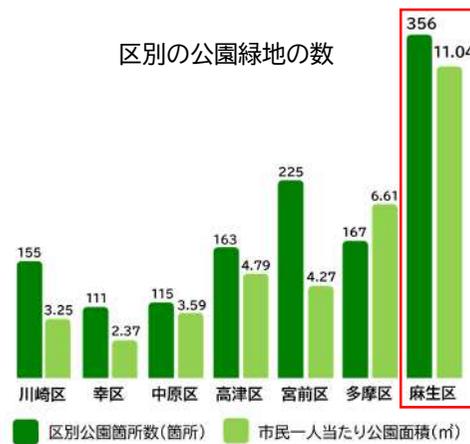
- 麻生区には芸術・文化関連の施設や団体が集積し、「アルテリッカしんゆり」や「KAWASAKIしんゆり映画祭」をはじめとして、音楽や映画などさまざまなイベントが年間を通じて開催され、区民が芸術・文化を身近に感じることができます。
- 一方で、令和6(2024)年度に実施した区民アンケートの結果では、区のイメージとして「芸術・文化のまち」と回答した区民が約27%となっており、区民が魅力を実感できていないことから、多様な主体との連携を深め、豊かな芸術・文化資源を活かした取組をさらに進める必要があります。



川崎市市制100周年記念事業「あさおの川崎100周年祭」特別企画「ゴジラ | 麻生区」ゴジラコンサート

- 麻生区は公園緑地が356か所(令和7(2025)年3月現在)と7区で最も多く、黒川・岡上・早野の農業振興地域をはじめ、市内の農地や山林の約44%が区内に集積するなど、都市部にありながら、豊かな自然を身近に感じることができます。
- 区民が農業や緑に触れる機会を増やす取組など、大学や農業従事者等との連携により、農と環境を活かしたまちづくりを進めることで、地域の貴重な農業資源、環境資源を次世代に引き継いでいく必要があります。

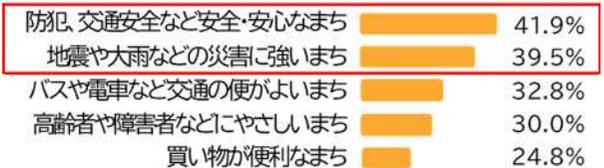
区別の公園緑地の数



資料:川崎の公園

- 麻生区は男女ともに平均寿命が全国1位(厚生労働省「令和2年市区町村別生命表」となった一方で、将来人口推計では既に人口ピークを迎え、少子高齢化の進行が予想されています。
- 麻生区内の土砂災害警戒区域は308区域(令和7(2025)年3月現在)と7区で最も多く、また、区民アンケートの結果において、「麻生区がどのようなまちになってほしいか」という質問に「防犯、交通安全など安全・安心なまち」と「地震や大雨などの災害に強いまち」という回答が上位を占めました。
- 直下型地震の発生や激甚化・頻発化する風水害に備え、災害時の自助・共助の体制を強化するとともに、区民の防犯・交通安全意識を高める取組を進めるなど、安全・安心なまちづくりを進める必要があります。

「麻生区がどのようなまちになってほしいか」に対する回答上位5項目



資料:令和6年度区民アンケート

## 計画期間の主な取組

## 芸術・文化のまちづくりの推進

- 区民、行政、市民団体、事業者、大学等の多様な主体の一層の連携のもと、豊かな芸術・文化資源を活かした取組を推進することで、地域の魅力やブランド力をさらに高め、区内外から、暮らし続けたい、暮らしてみたいと思われる魅力と活力にあふれるまちをめざします。
- 区民主体の「麻生音楽祭」、「あさお芸術のまちコンサート」や、区の芸術・文化を知って体験できる「カフェ・グランデ あさお」の開催、ホームページやSNS等の各種媒体を通じた芸術・文化情報の発信など、芸術・文化団体をはじめとしたさまざまな主体と連携しながら、「芸術・文化のまち 麻生」をめざす取組を進めます。



あさお芸術のまちコンサート ユニヴァーサル

## 農と環境を活かしたまちづくりの推進

- 黒川・岡上・早野の農業振興地域や、区内に多く残る里地・里山の自然や文化など、区の貴重な地域資源を次世代に引き継ぐため、大学や農業従事者、市民団体など多様な主体との協働により、地元農産物の収穫体験等を行う「グリーンツーリズム」を開催するなど、農と環境を活かした取組を進めます。
- SDGsを推進する企業や団体等が一堂に会する「サステナブルマルシェ」を開催するなど、持続可能なまちづくりを進めます。
- 身近な公園等を活用して、誰でも気軽に参加できる「健康体操」や「健康ウォーク」などを開催し、健康づくりや介護予防、地域のつながりづくりの取組を進めます。



黒川地域グリーンツーリズム

## 安全・安心のまちづくりの推進

- 過去の災害の教訓、課題を踏まえ、多様な主体と連携した実践的な総合防災訓練、親子で楽しみながら防災を学ぶ「区民防災塾」、動画コンテンツ等を活用した家庭内備蓄や適正避難の普及啓発など、区民の防災意識を高め、地域防災力の強化に向けた取組を進めます。
- 防犯・交通安全の関係団体等と連携した啓発活動や、地域の防犯力の向上につながる「わんわんパトロール」を継続して実施するなど、安全・安心のまちづくりを進めます。
- 協力事業者等との連携による「高齢者見守りネットワーク事業」を実施するなどにより、安全・安心で、地域全体で高齢者を見守り、支え合う地域づくりを進めます。

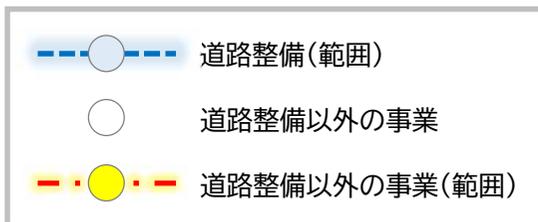


区民防災塾



## 幸区マップ

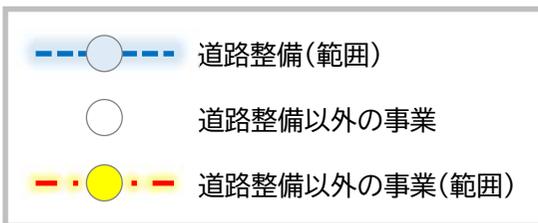
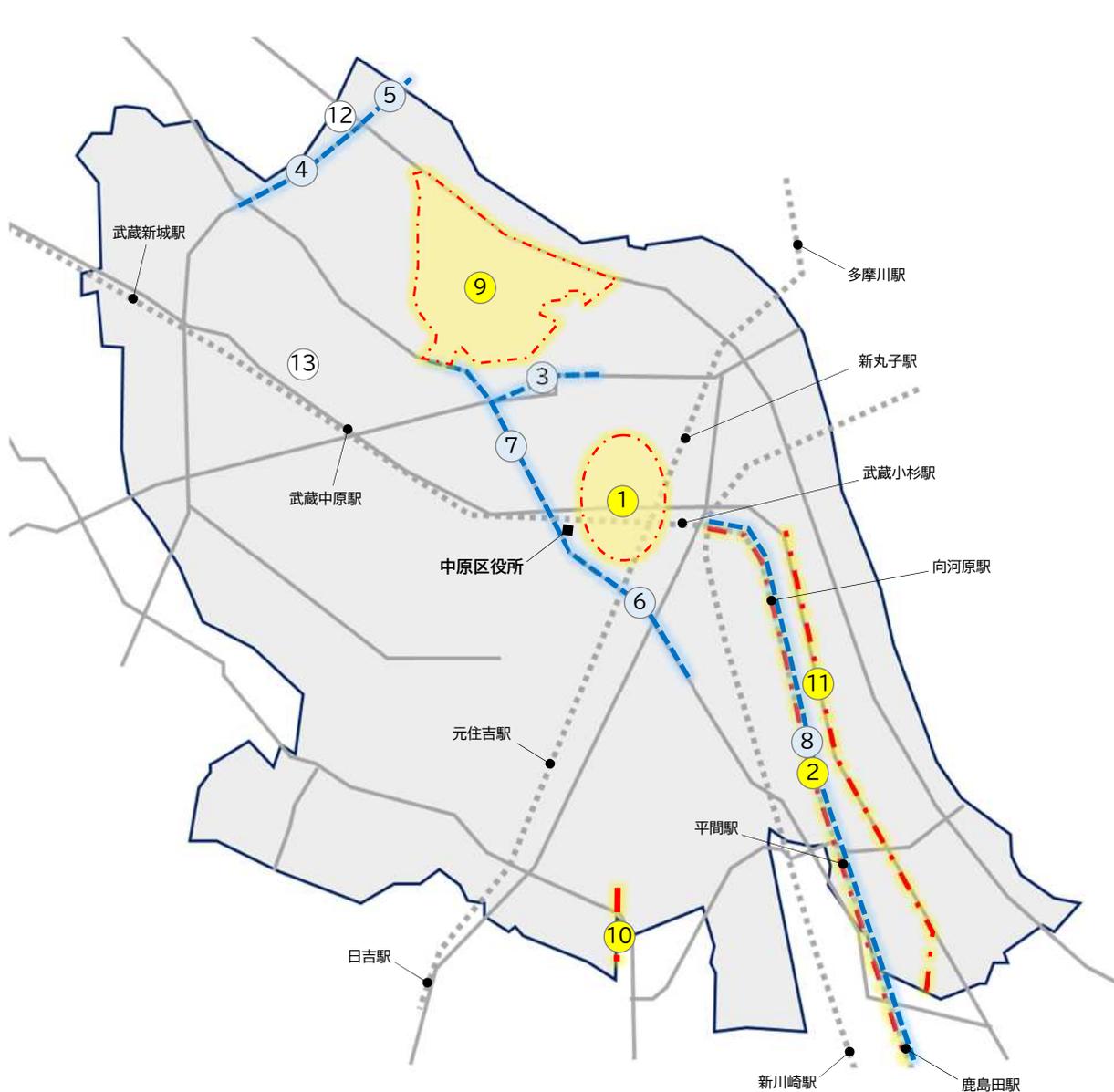
※ 第4期実施計画期間(令和8(2026)~11(2029)年度)に、区内で展開される道路・公園や福祉施設などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。



No.	事業	事業予定
1	ミュージア川崎シンフォニーホールの大規模改修	R11年度完成
2	新川崎・創造のモリのイノベーション拠点整備	R11年度供用開始
3	地方卸売市場南部市場の整備等	事業推進
4	幸区保育・子育て総合支援センターの整備	R12年度運営開始予定
5	不燃化重点対策地区(幸町周辺地区)における燃え広がりにくいまちづくりの取組	事業推進
6	南武線沿線における地域資源と民間活力を活かしたまちづくりの取組	事業推進
7	小倉西住宅の整備	R10年度完成
8	末吉橋の整備	R10年度完成
9	JR南武線高架化工事	R21年度完成予定
10	夢見ヶ崎動物公園の再整備	事業推進
11	水処理センターの消毒機能の確保(加瀬)	事業推進
12	ポンプ場の汚水揚水機能の確保(小向)	事業推進
13	幸消防署平間出張所の整備	R11年度完成
14	南加瀬中学校の校舎増築	R12年度供用開始予定
15	幸市民館・図書館の改修	R10年度供用開始

# 中原区マップ

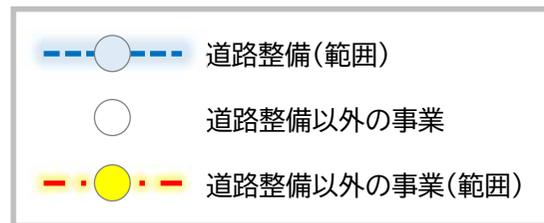
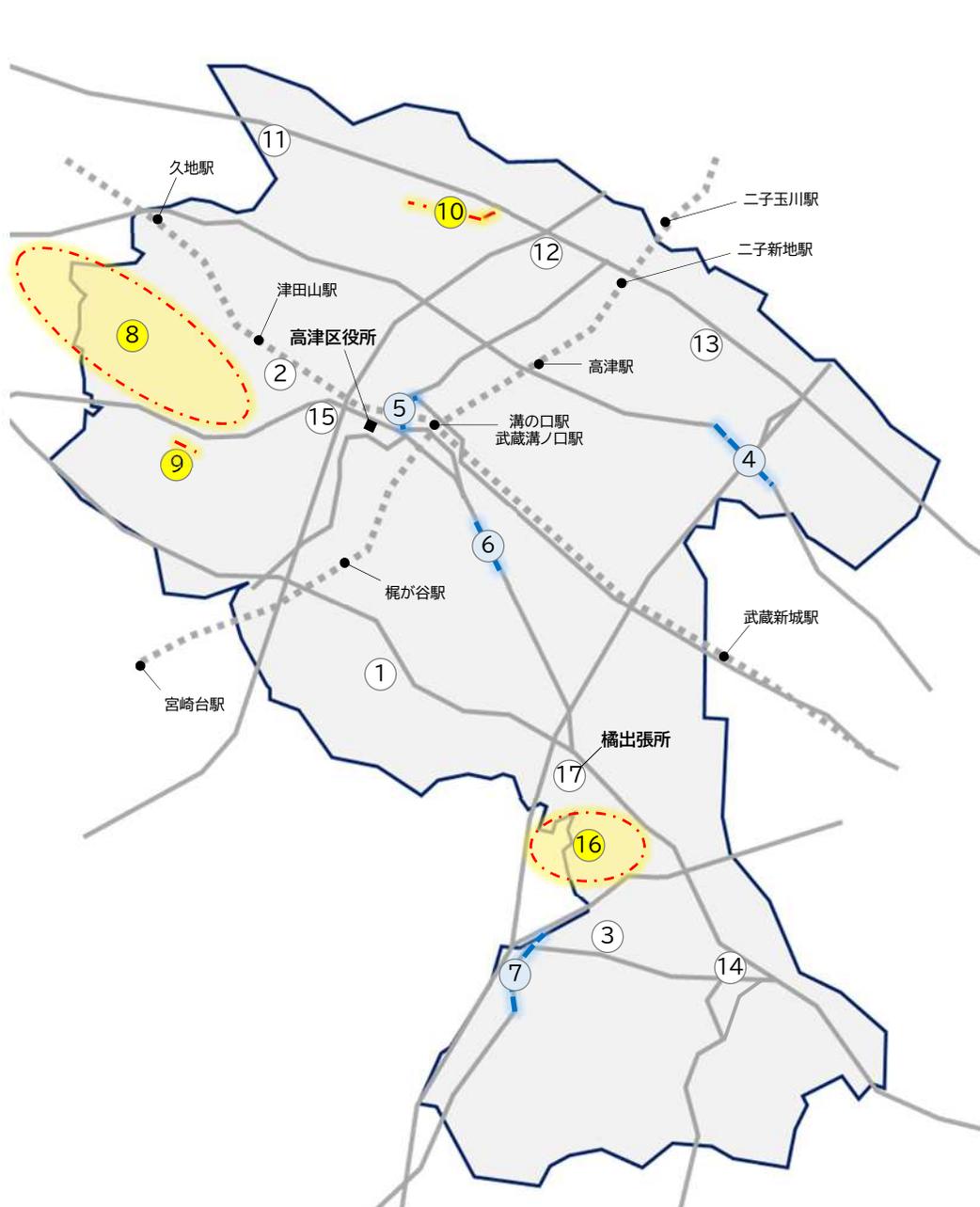
※ 第4期実施計画期間(令和8(2026)~11(2029)年度)に、区内で展開される道路・公園や福祉施設などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。



No.	事業	事業予定
1	小杉駅周辺地区の整備(日医大開発計画C地区、小杉町1丁目地区等)	事業推進
2	南武線沿線における地域資源と民間活力を活かしたまちづくりの取組	事業推進
3	丸子中山茅ヶ崎線【小杉御殿工区】の道路拡幅、道路新設	事業推進
4	宮内新横浜線【宮内工区】の道路新設	事業推進
5	(仮称)等々力大橋の整備	事業推進
6	国道409号【市ノ坪工区】の道路拡幅	事業推進
7	国道409号【小杉工区、小杉御殿町 I 期・II 期工区】の道路拡幅	事業推進
8	JR南武線高架化工事	R21年度完成予定
9	等々力緑地の再編整備	R11年度再編整備工事完了
10	渋川整備工事	R12年度完成予定
11	丸子地区(山王排水樋管周辺地域含む)の浸水対策	事業推進
12	宮内排水樋管周辺地域の浸水対策	事業推進
13	中央支援学校高等部分教室の整備	R9年度完成

## 高津区マップ

※ 第4期実施計画期間(令和8(2026)~11(2029)年度)に、区内で展開される道路・公園や福祉施設などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。



No.	事業	事業予定
1	市民プラザ現施設の利用終了に伴う新たな施設整備に向けた取組	事業推進
2	高津区保育・子育て総合支援センターの整備	R9年度運営開始
3	千年前田住宅1号棟の整備	R11年度完成
4	国道409号【北見方工区】の道路拡幅	事業推進
5	溝ノ口線の道路拡幅	事業推進
6	野川柿生線【久本工区】の道路拡幅	事業推進
7	丸子中山茅ヶ崎線【野川(高津)工区】の道路拡幅	事業推進
8	緑ヶ丘霊園の整備	事業推進
9	一級河川平瀬川の護岸改修	事業推進
10	一級河川平瀬川の多摩川合流部整備	事業推進
11	宇奈根排水樋管周辺地域の浸水対策	事業推進
12	二子排水樋管周辺地域の浸水対策	事業推進
13	諏訪排水樋管周辺地域の浸水対策	事業推進
14	高津消防署子母口出張所の整備、救急隊の配置	R9年度完成
15	高津消防団作延分団下作延班器具置場の整備	R8年度完成
16	橘樹官衙遺跡群の整備	事業推進
17	橘出張所の改修	事業推進

# 宮前区マップ

※ 第4期実施計画期間(令和8(2026)～11(2029)年度)に、区内で展開される道路・公園や福祉施設などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。

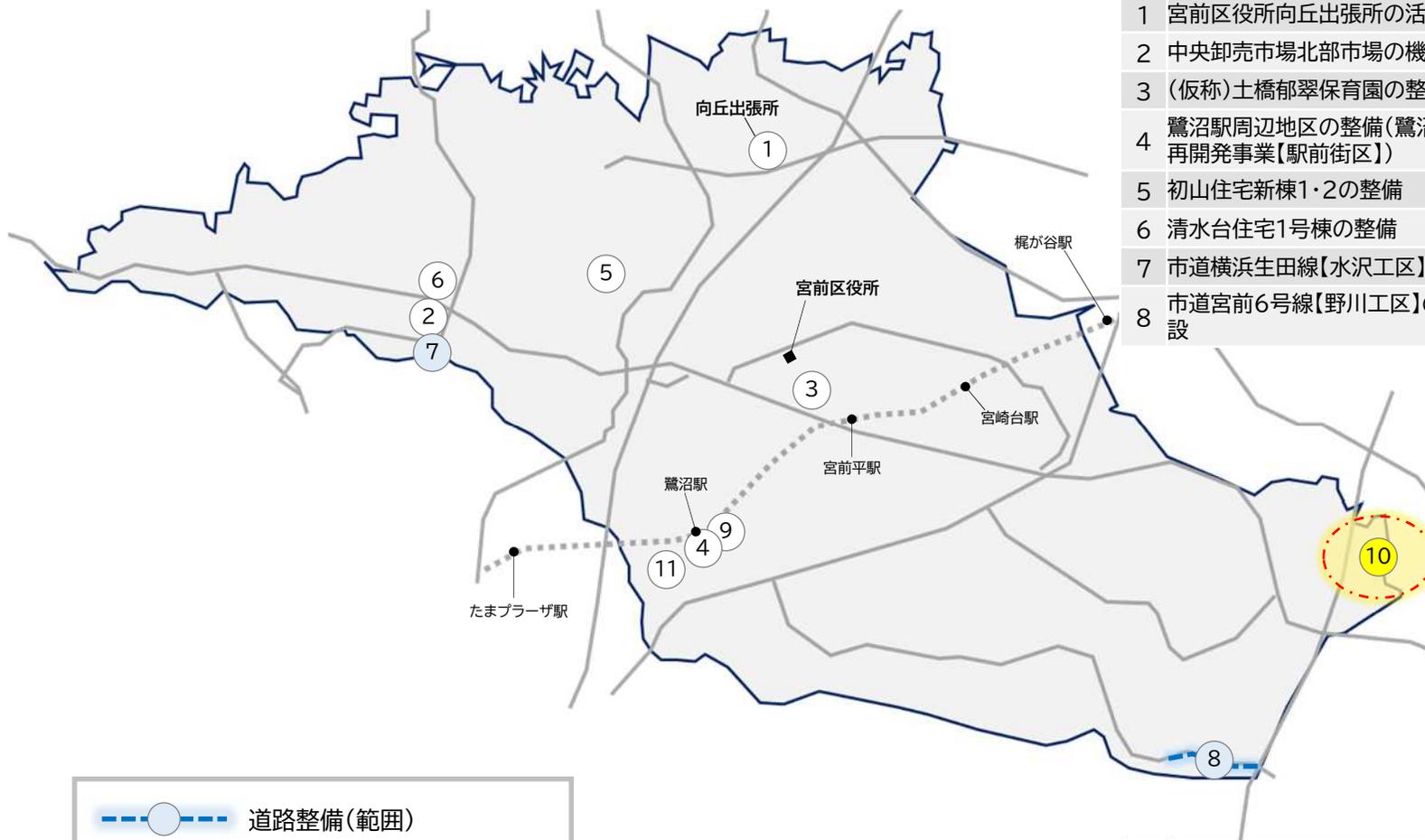
序章

基本構想

基本計画

第4期実施計画

資料編

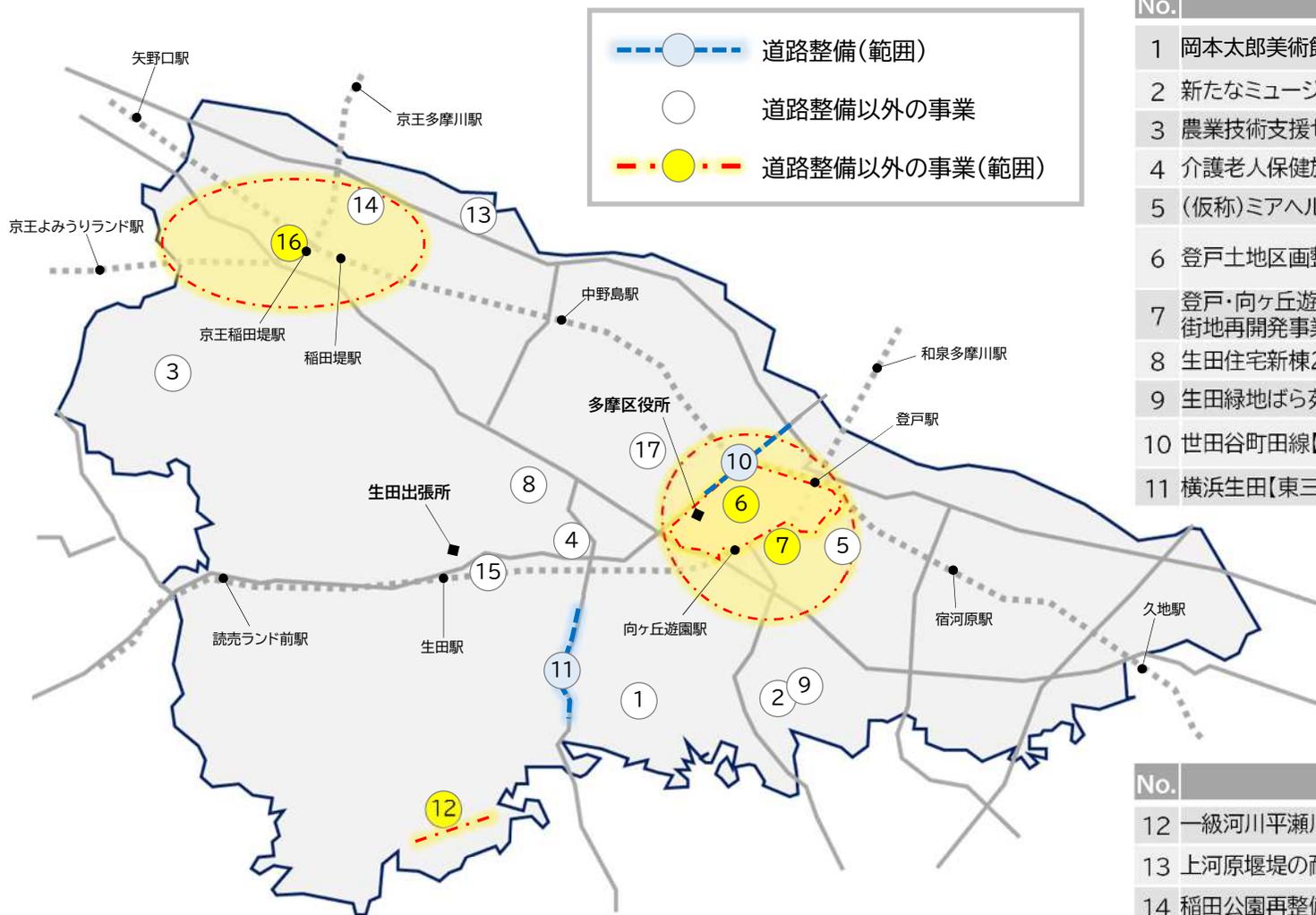


No.	事業	事業予定
1	宮前区役所向丘出張所の活用に向けた取組	事業推進
2	中央卸売市場北部市場の機能更新	事業推進
3	(仮称)土橋郁翠保育園の整備	R8年度開所
4	鷺沼駅周辺地区の整備(鷺沼駅前地区市街地再開発事業【駅前街区】)	R9年度建築工事着手
5	初山住宅新棟1・2の整備	R8年度完成
6	清水台住宅1号棟の整備	R10年度完成
7	市道横浜生田線【水沢工区】の道路新設	R11年度完成
8	市道宮前6号線【野川工区】の道路拡幅、道路新設	R11年度完成

No.	事業	事業予定
9	宮前区役所・市民館・図書館の移転	事業推進
10	橘樹官衙遺跡群の整備	事業推進
11	鷺沼小学校の校舎増築	R9年度供用開始

# 多摩区マップ

※ 第4期実施計画期間(令和8(2026)~11(2029)年度)に、区内で展開される道路・公園や福祉施設などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。

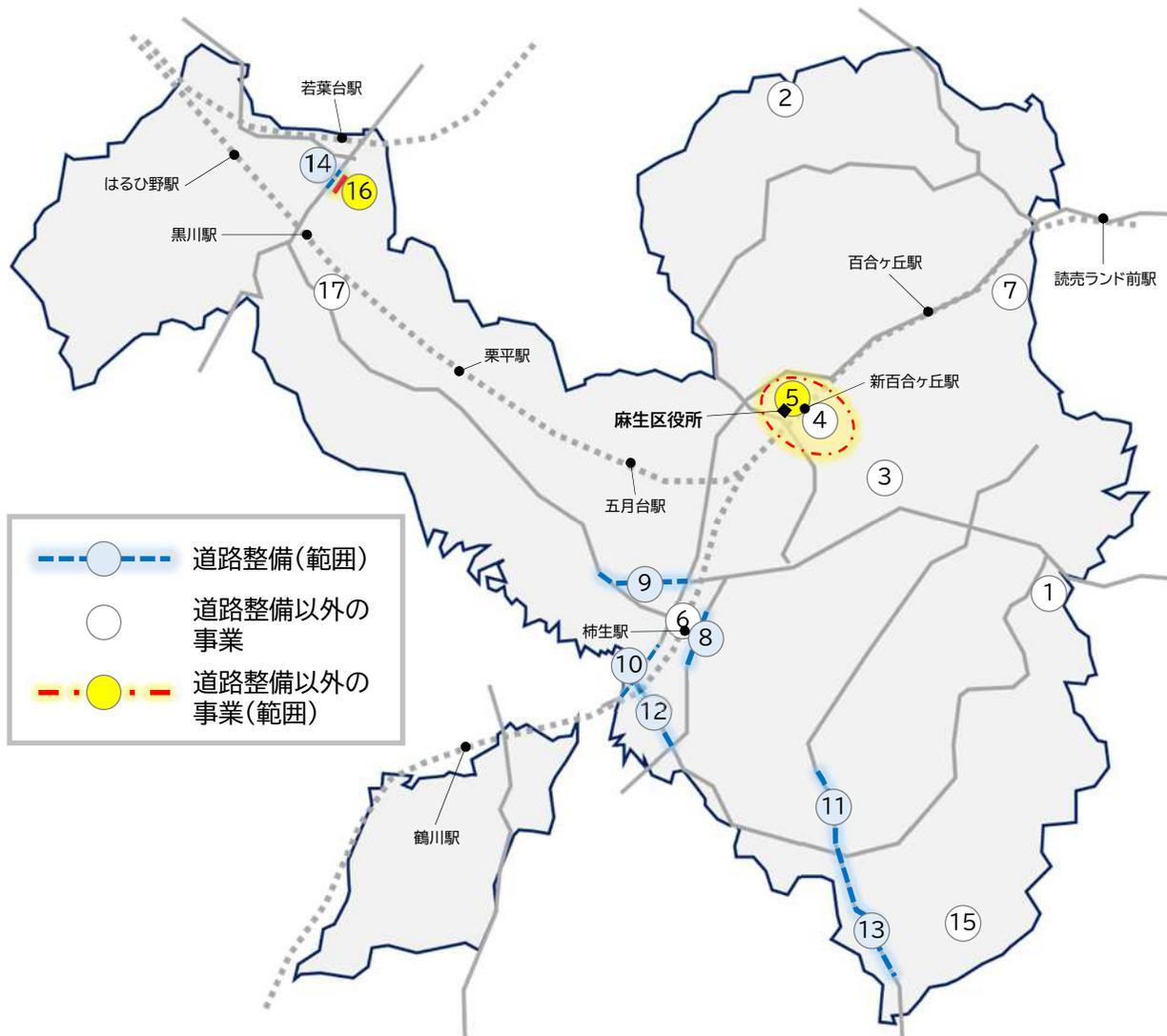


No.	事業	事業予定
1	岡本太郎美術館の改修	R10年度完成
2	新たなミュージアム整備推進事業	事業推進
3	農業技術支援センターの整備等	事業推進
4	介護老人保健施設(枳形地区)の整備	R8年度開所
5	(仮称)ミアヘルサ保育園ひびき登戸の整備	R8年度開所
6	登戸土地区画整理事業	R9年度基盤整備完了
7	登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区の整備(登戸駅前地区市街地再開発事業、向ヶ丘遊園駅南側まちづくり等)	事業推進
8	生田住宅新棟2の整備	R8年度完成
9	生田緑地ばら苑の再整備	事業推進
10	世田谷町田線【登戸工区】の橋りょう整備	R11年度完成
11	横浜生田【東三田工区】の道路拡幅	事業推進

No.	事業	事業予定
12	一級河川平瀬川支川の改修	事業推進
13	上河原堰堤の耐震補強・補修	事業推進
14	稲田公園再整備に向けた取組	事業推進
15	準用河川五反田川の改修	R8年度完成
16	三沢川地区の浸水対策	事業推進
17	登戸小学校の校舎増築	R9年度1期供用開始、R11年度2期供用開始

# 麻生区マップ

※ 第4期実施計画期間(令和8(2026)~11(2029)年度)に、区内で展開される道路・公園や福祉施設などの生活基盤の整備状況等をマップで示します。



No.	事業	事業予定
1	王禅寺処理センターの基幹的整備工事	事業推進
2	川崎授産学園の建替え	R8年度一部供用開始、R9年度全面供用開始
3	麻生区保育・子育て総合支援センターの整備	R13年度以降運営開始予定
4	横浜市高速鉄道3号線の延伸の取組	事業推進
5	新百合ヶ丘駅北側地区のまちづくり等の取組	事業推進
6	柿生駅周辺地区の整備	事業推進
7	高石住宅5号棟の整備	R8年度完成
8	柿生町田線【柿生駅南口工区】の道路新設	R11年度完成
9	尻手黒川線【IV期工区】の道路新設	R10年度完成
10	世田谷町田線【上麻生II期工区】の道路拡幅	事業推進
11	菅早野線【下麻生工区】の道路拡幅	R11年度完成
12	横浜上麻生【柿生陸橋工区】の橋りょう整備	事業推進
13	横浜上麻生【下麻生工区】の道路拡幅	事業推進
14	町田調布【黒川工区】の道路拡幅	事業推進
15	早野聖地公園の整備	事業推進
16	準用河川三沢川の改修	事業推進
17	埋蔵文化財保存・活用施設の整備	事業推進